

会員各位

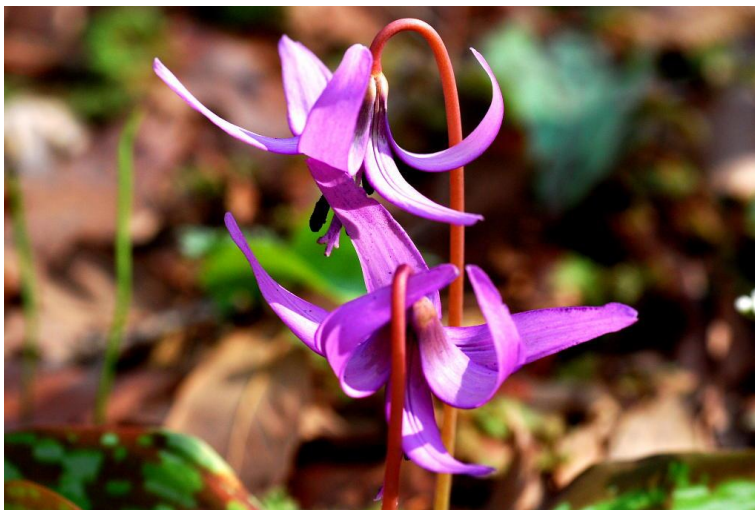
協会だよりー258(6月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

- 第221回月例会（講演会）・・・会員様へご案内お送り済み
日 時：7月10日（木）13時～17時
会 場：エッサム神田ホール2階（201）多目的ホール（100名収容）
講師・題目：㈱エヌパワー代表取締役社長 中山貴晴様による PPS（特定規模電気事業者）と再生可能エネルギーのお話
- 第222回月例会（見学会）見学設備決定しました。（45名分確保）
日 時：9月8日（月）15:00～16:00
見学先：首都圏外郭放水路（通称：地下のパルテノン神殿）
- 第223回月例会（一泊研修会）見学施設決定しました。
日 程：10月3日（金）～4日（土）
見学先：三菱マテリアル㈱直島精錬所、集合地・・・JR 岡山駅



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 会員の異動（社長就任）
堺化学工業㈱様
- 三. 概要 首都圏外郭放水路とは
- 四. 事務局より（六月度の予定）
- 五. 【雑学】更科紀行バスの旅ー3

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー257（5月号）をメール&郵便で送信（5／1）
- ② 第一回運営委員会
日 時：平成26年5月15日（木）16時00分～17時00分
場 所：堺化学工業㈱東京支店会議室

出席：委員長、運営委員、月例幹事、専務理事

議題：第221回月例会（講演会）の準備、その他

【予定事項】

- ① 平成26年度会員名簿（A5冊子版）の発行予定（6／吉）
- ② 第221回月例会の最終準備（事務局）（6／27（金）まで）

2. 会員の異動

（社長就任のお知らせがありました）

- 堀化学工業株式会社殿
（現）薮中 巖様 ⇒ （新）矢部正昭様

3. 概要 首都圏外郭放水路とは

埼玉県東部に建設された、世界最大級の地下河川です。

首都圏外郭放水路は国道16号の地下約50メートルに建設された延長6.3キロメートルの地下放水路です。施設は、各河川から洪水を取り入れる流入施設、地下で貯水したり、流下する地下水路、そして地下水路から洪水を排出する排水機場等で構成されています。



（首都圏外郭放水路のホームページより転載）

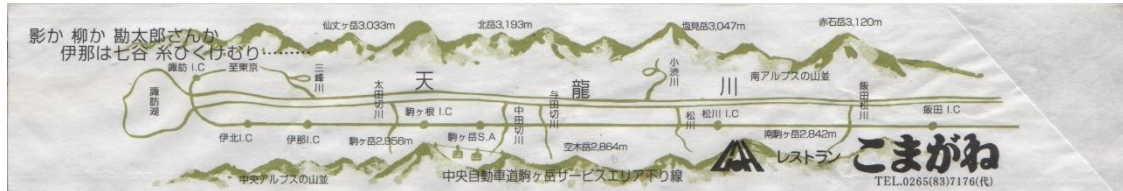
4. 事務局より（6月度の予定）

月	火	水	木	金	土
2	3	4	5	6	7
×	○	×	○	○	×
9	10	11	12	13	14
×	○	×	○	○	×
16	17	18	19	20	21
帰省（札幌・余市へ）				○	×
23	24	25	26	27	28
○	都留市	×	○	○	×
30	7/1	7/2	7/3	7/4	7/5
○	○	×	○	×	×

6月度の出勤予定：10日間

5. 【雑学】更科紀行バスの旅-3

今月は木曽路を行く旅となりました。バスは朝8時に新宿を出発、一路中央高速で中津川を目指します。途中、駒ヶ根のSAで早めの昼食を取りました。SAのレストラン「こまがね」の箸袋には伊那谷から望める南アルプスの連峰が印刷されています。またそこには昔、長谷川一夫が主役の映画でヒットした伊那の勘太郎の主題歌「貫太郎月夜」の一節が乗っていました。「影か柳か 勘太郎さんか 伊那は七谷 糸引くけむり・・・」伊那市には勘太郎の銅像が有るそう。



今回のスタートは恵那山トンネルの先、岐阜県中津川市の馬籠ですので、急いで昼食をとった後、バスに乗り込みます。島崎藤村では有りませんが、木曽路は全て山の中と実感する場所です。

《瑠璃山医王寺》岐阜県中津川市落合山中

瑠璃山医王寺は一名山中薬師ともいい、日本三薬師の一つで、虫封じの薬師でも知られ各地からの参詣も多い。本尊の薬師如来は行基の作とも伝えられています。ここでは切傷によく効く「狐膏薬」が有名で、膏薬は寺の住職が夢の中で、トゲの刺さった狐を助けたお礼に製法を授かったといわれています。また本陣井口家に泊まった旅人が、秋葉大明神の夢枕で教えられた妙薬とも伝えられています。山門の右手には名木「枝垂れ桜」が控えています。



境内にある芭蕉さんの句碑

梅が香に のっと日の出る 山路哉

元禄7年1月(炭俵)



《落合の石畳》

いよいよ、歴史の道「中山道」として十曲峠より馬籠の宿までの一部800mくらい、昼なお暗き整備された石畳、なだらかな登り道を黙々と歩きます。800mとは言え新茶屋までは一汗かいた登りでありました。

《新茶屋》

石畳の道を終えて、もう暫く登ると、新茶屋があります。ここに「是より北 木曾路」の碑と芭蕉さんの句碑があります。説明板には「この辺りの地名を「新茶屋」という、江戸のころ宿場と宿場の間にある茶屋を「立場茶屋」といった。かつての茶屋は、ここから岐阜県側に数百メートルほど入った場所にあったが、江戸の終わりに現在地に移った。そのためここを新茶屋と呼ぶようになった。わらび餅がこの茶屋の名物だった。」とあります。



送られつ 送りつ 果ては木曾の穂
貞享五年（曠野）
おくられつ おくりつはては 木曾の秋

一汗かいた私たちを乗せたバスは、馬籠の宿へと向かいます。馬籠の宿には同年代と思われる爺婆ばかり目立ちます。それも関西弁が幅をきかしています。

《藤村記念館》

藤村記念館は島崎藤村の生まれた本陣跡に昭和 22 年に建てられました。又、青年時代活躍した長野県小諸市の懐古園にも藤村記念館があります。

馬籠の宿より妻籠の宿までは深山幽谷、まさに藤村の「夜明け前」の出だしの文章・・・木曾路は全て山の中である・・・を実感いたしました。



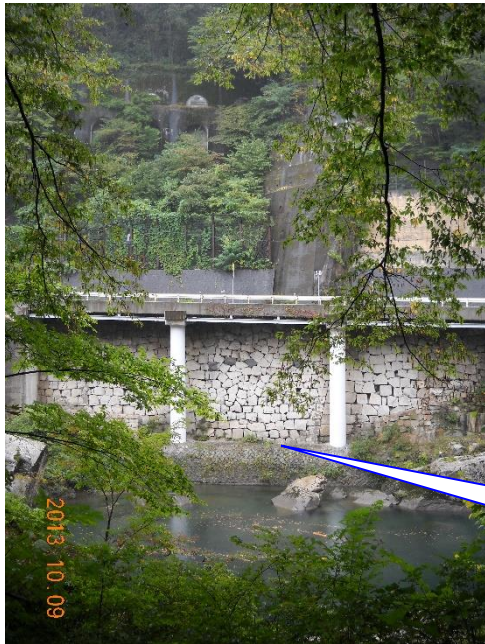
馬籠の宿を闊歩する爺婆たちと、馬籠出身の島崎藤村記念館。私たちは記念館に入場して、しばし藤村の人生と明治の雰囲気浸ることにします。

本日の見学はここまでで終了です。今日のお宿は木曾福島まで戻った「木曾路の宿いわや」です。木曾川沿いのこじんまりした宿ですが、落ち着いた雰囲気を持った宿でした。温泉と美味しい夕食で英気を養い、明日また元気に怪我なく旅を続けますように。

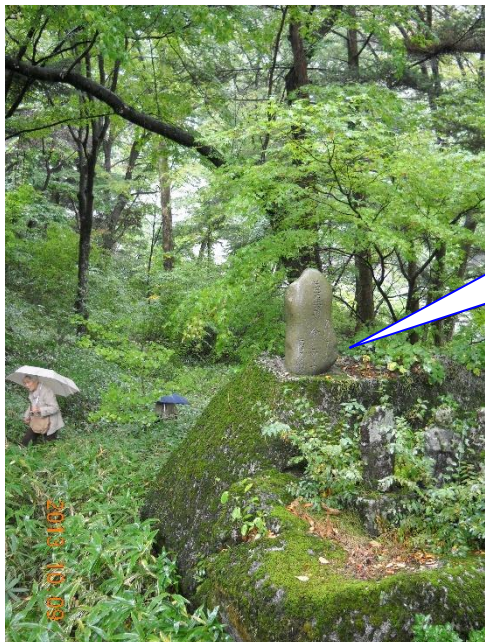
しかし翌朝起きると雨の様です。傘は持参しましたが、雨具を持ってこなかったため山道のコースは辞退せざるを得ません。準備不足に反省です。

《木曾の^{かけはし}棧》上松と福島の間にあります。

説明板によりますと「木曾の棧というのは対岸に見える断崖絶壁に木曾川に沿って作られた木の棧道のことをあらわしています。(対岸にかけられた橋ではありません。)これが焼失したので、尾張藩により慶安元年(1648)に、当時875両という大金をかけ、中央部を木橋とした長さ56間(102m)に及ぶ石垣を作り上げました」と説明されています。また棧の対岸の崖の一角に芭蕉さんの句碑が建立さ



この辺りまでが、江戸時代の石積みのラインでしょうか。ここより上は明治の改修による石積みです。



芭蕉翁

かけはしや 命をからむ 葛かつら

更科紀行には「徒歩より行くものさへ、眼くるめきたましるしほみて、足さだまざりけるに、かのつれたる奴僕いともおそろしき見え、馬のうへに只ねぶりにねぶりと、落ちぬべき事あまたゝびなりけるを、あとより見上げて、あやうき事かざりなし」とあり、木曾の棧を通るときに、馬の上で転寝しては、木曾川に落っこちちゃうよ。などと恐る恐る渡った場所のようです。

萬松山興禅寺》長野県木曾郡木曾町福島 5659 番地

木曾川を渡ったなだらかな山腹に位置する臨済宗妙心寺派に属する寺院で、木曾義仲公並びに、木曾家代々、福島関所代官山村家代々の墓所で木曾三大寺の一つと成っています。山門は勅使門として知られています。私たちは宝物殿に入り、木曾の歴史の勉強をします。



勅使門（興禅寺のパンフより）とは

勅使門と称するのは、治承4年（1180）源行家が以仁王の勅使として、平家追討の令旨を、この門を通り観音堂において義仲公に伝えたことから名付けられました。

《徳音寺》長野県木曽郡木曽町日義 124-イ

1168年、木曽義仲が母小枝御前を葬った寺で、一族の菩提寺。境内には義仲・巴御前らの墓があります。山門を入った本堂の前には馬に乗った巴御前の銅像がどんと建てられています。鐘楼門（山門）は木曽八景の一つ「徳音寺の晩鐘」にも数えられています。付近には義仲の資料を展示している義仲館（徒歩すぐ）などもあります。続いて義仲館へと向かいます。



《義仲館》長野県木曽郡木曽町日義 290-1 入場料：大人 300 円

（義仲館のパンフ参照）

木曽（源）義仲は武蔵野国大蔵館で生まれ幼名は駒王丸。駒王丸は畠山重能と斎藤実盛の温情により信濃の国、木曽に逃れ中原兼遠の養育を受けた。

治承4年（1180）後白河法皇第二皇子以仁王の平家追討の令旨を奉じ旗揚げをし、寿永2年（1183）北陸に進撃した。義仲は倶利伽羅峠で牛の角に松明をつけて平家の大軍に追い込み撃滅させたことは特に有名である。・・・とありますが、私たちも3月のおく

の細道で雪道の倶利伽羅峠を歩き、火牛の計を見ましたね。京に上った義仲は征夷大將軍に任ぜられましたが、元暦元年（1184）後白河法皇の策略により鎌倉軍に敗れ、栗津ヶ原で討死しました。

《ねざめの床》《寢覚山臨川寺》長野県木曽郡上松町 寢覚の床

浦島太郎伝説のある天下の奇勝・寢覚の床は臨川寺の境内から眼下に望むことができます。ただし入場料はかかりますが。今日は雨の中、霧に煙る風情が感じられます。その写真を紹介します。境内の真下は中央西線の線路（JR東海）が通り、はるか下に木曽川（寢覚の床）が見えます。



この奇岩が現れたのは、事業家福沢桃助（福沢諭吉の養子）が木曽川の水を利用した水力発電の開発により水量が減少したことが原因といわれています。水流の減少が問題を起こさずに名勝を生んだ原因になるとは不思議なものです。

また臨川寺の境内には羽前新庄金山連中により建立された芭蕉さんの句碑があります。



ひる顔に ひる寝せふもの床の山

韻塞（貞享五年）

東武吟行のころ、美濃路より李由が許へ文のをとづれに

床の山は万葉以来の歌枕 鳥籠山（鍋尻山）のこと。

彦根の近くを通ったが彦根の西平田に住む李由宅に立寄れないのは残念ですと挨拶した句です。

床の山がねざめの床にかけて選んだ句碑でしょうか？

さて昼食は臨川寺より歩いて 100mの「レストハウス木曽路」に向かいます。木曽路の箸袋には木曽八景が紹介されています。

木曽八景とは

- 寢覚の床
- 徳音寺の晩鐘
- 御嶽の暮雪
- 棧の朝霧
- 駒ヶ岳の夕照
- 風越の青風
- 小野瀑布
- 与川の秋月

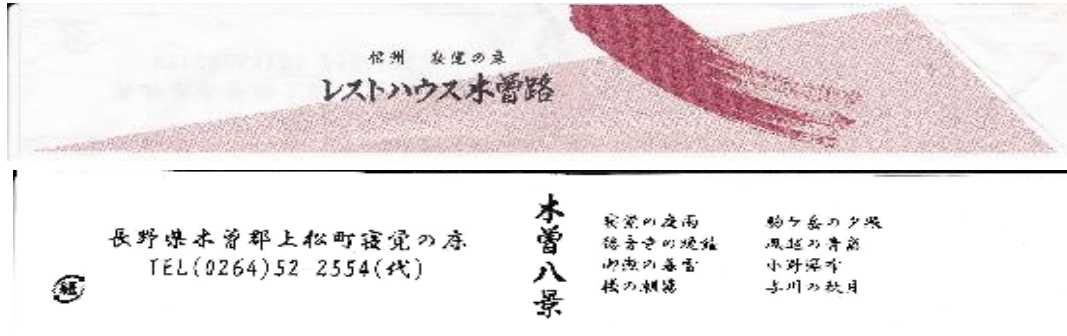
以上八ヶ所の景色です。私たちは一応、寢覚の床、徳音寺の晩鐘、棧の朝霧を訪れたことになりました。昼食の後は、旧中山道にある丸山公園に向かいます。しかし雨具不備の小林は、しきりに降る雨に怯えて登山をパスし、バスの中で約1時間ほど、待機いたしました。残念！

大高先生のガイドブックによりますと「丸山公園」は信濃と美濃の国境、鳥居峠の肩にあり、御嶽山を望む遥拝所があり、義仲硯水があると紹介されています。そこにある芭蕉さんの句碑は

- ・ 木曾の枿 うき世の人の 土産かな 貞享五年 (更科紀行)
- ・ 雲雀より うへにやすらう 嶺かな 貞享五年 (笈の小文)

吉野へ行く途中、臍峠で詠んだもの。

芭蕉さんの俳句に因み、今回の自宅への土産はレストハウス木曽路にて枿の実の入った餅菓子を購入しました。木曾の枿 うき世の人の 土産かな。



レストハウス木曽路の箸袋と木曽八景の紹介

丸山公園から帰ってきた仲間を乗せたバスは再度、福島を通り、奈良井の宿へ向かいます。奈良井の宿は漆器関係のお店が多く、時代劇に出る風情を保っています。もうここは木曽川の水系ではなく、北へ流れて千曲川に注ぎます。私たちは檜川に向かいます。

《檜川村役場前の芭蕉句碑》檜川村は2005年合併して塩尻市檜川になる。

旧檜川村役場は塩尻市檜川支所、檜川公民館、図書館檜川分館の複合施設と成っています。



左は広場の右の一角にある芭蕉さんの句碑で、約250年前に福島代官 山村良義により建立された歴史ある句碑です。

送られつ をくりてはては 木曾の秋

美味しい所、取の旅でしたが、更科紀行の旅はここで終了。バスはまた南へ下り、木曽谷より、中央アルプスをぶち抜いた長いトンネルを抜け、伊那谷へと向かいます。中央高速を使って一路東京への帰路に着きました。

【文責：専務理事】